The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「高血圧 サイレントキラーの正体」
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2014, 54, p. 7-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86701
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

●日本WHO協会 フォーラム開催報告

「高血圧 サイレントキラーの正体」

4月7日はWHOの設立記念日で、その年に世界的に優先的に取り組むべき健康課題が世界保健デーのテーマとして発表されます。Silent killer, global public health crisisとして2013年世界保健デーのテーマとなった高血圧は、高齢化社会の先頭集団にありながら世界に倍する塩分摂取量の私たち日本人にも、最も身近で切実な健康課題です。自覚症状がないこともあり、放置されたり、治療の中断例も少なくありません。今回、高血圧の生活習慣病に対するリスク要因としての意味を再認識する目的で、平成26年2月13日に大阪国際交流センターに於いて日本WHO協会フォーラム「高血圧サイレントキラーの正体」を開催致しました。企業・健保組合・行政で健康啓発活動を担当しておられる方々を中心に100名余の皆様に参加いただきました。

まず開会の挨拶にかえて日本WHO協会の関淳一理事長が「世界保健デーテーマの意義」について話し、つづいて滋賀医科大学教授の三浦克之先生に「国際共同研究からわかった血圧を上げる生活習慣」、また大阪市立大学教授の由田克士先生に「高血圧の予防と治療のための食生活改善戦略」と題して、各々ご講演いただきました。講演の後、パネルディスカッション形式で参加者から活発な質問やご意見をうかがうことができました。